



## 村上文庫 (刈谷市中央図書館内)

現代中国学部助教授 松尾肇子

村上文庫の名前は、刈谷藩の藩医だった村上忠順（ただまさ）の蔵書を取蔵することになんて付けられた。1812年に現在の豊田市に生まれた村上忠順は、刈谷藩主の侍医だった父の後を継いで藩医となり、維新後には明治政府の下でしばらく国学の指導にも当たった。こうした個人の蔵書は、その人が死去すると売りに出され、ばらばらになってしまうのが常である。1884年に忠順が没すると、その蔵書もあやうくこうした運命をたどるところだった。その難を救ったのが、当時刈谷町の医師穴戸俊治と町会議員藤井清七の二人である。1914年彼らは一括購入した忠順の蔵書約25000冊を町にそっくり寄贈したばかりでなく、城町の亀城小学校（郷土資料館として保存されている）の隣に木造2階建ての書庫と閲覧室を立てた。1917年には、町立図書館に発展した。穴戸に教えを乞いながらその整理に当たった森銑三は、町の予算が無くなった後は穴戸が給料を出してくれたと、思い出を語っている。このとき森銑三が作った目録は、「刈谷町方文書目録」とあわせて、1978年に『村上文庫図書分類目録』として刈谷図書館から出版されている。1994年には刈谷駅から徒歩10分ほどのところに、美術館と並んでモダンなデザインの刈谷市中央図書館が建設され、その2階に、村上文庫のための出納・閲覧室が整えられて、移管された。図書館のホームページからオンライン検索もできるようになっている。

さて、この村上文庫の特徴の第一は、3000冊にのぼる豊富な医書である。江戸時代の医学の基本であるたくさんの漢方鍼灸の図書のほかに、着色で解剖図を載せた蘭学書の写本などもあり、新知識を勉強した忠順の姿が窺

われる。忠順は藩主を説得してその子に種痘を接種しており、これらは実際に役立てられた学問だったことがわかる。

ただ蔵書の数をいえば、文学語学関係の本が7400冊と最も多い。忠順は医者として必要だった漢学だけでなく、和歌や絵画も先生について学んだ。藩医となってからは、藩主や藩士に『論語』や『老子』、『源氏物語』などを講義し、和歌も指導した。蔵書には、尾張藩の神谷三園が写した鎌倉時代の辞書『塵袋』や、江戸初期に日本では珍しい木活字を用いた直江版『文選』など、数えるほどしか残っていない貴重な本がある。ことに直江版『文選』15冊は当時の題簽もそのままに、今刷り上ったばかりのようである。村上文庫の特徴の第二はほとんどの本に忠順の書き込みがあることだが、その美しさを愛したのか直江版『文選』には全く書き入れがない。

また、国学者・歌人として忠順自身が著した400冊近くの本も取蔵されている。そのうち『古事記標註』は1874年に出版され広く読まれたもの。そのほか彼自身が写した数千冊にのぼる書籍も取蔵されている。村上文庫は以前から知られるにもかかわらず、まだ個々の本が紹介されるにとどまっており、村上忠順の学問の全体を見渡す調査が待たれる。

所 在：刈谷市住吉町4丁目1番地

電 話：0566-25-6000

開館時間：午前10時～午後6時

月・第4金曜、祝日の翌日休館

交 通：JR・名鉄とも刈谷下車、徒歩10分

ホームページ：

<http://www.city.kariya.aichi.jp/library>

編集・発行 愛知大学図書館

2004年12月10日発行 No. 30

■豊橋図書館 〒441-8522 豊橋市町畑町字町畑1-1 ☎(0532) 47-4181  
■名古屋図書館 〒470-0296 西加茂郡三好町黒笹370 ☎(0561) 36-1115  
■車道図書館 〒461-8641 名古屋市東区筒井二丁目10-31 ☎(052) 937-8116  
URL <http://library.aichi-u.ac.jp>